

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。 茨城大学教職大学院、神栖市校長会、鹿嶋市校長会
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・茨城大学教職大学院コラボ研修】 地域スクールリーダー育成セミナー ～市町村校長会との連携による次期管理職候補者育成研修～
支援事業報告書	研修等名：【NITS・茨城大学教職大学院コラボ研修】 地域スクールリーダー育成セミナー ～市町村校長会との連携による次期管理職候補者育成研修～ 開催日時：令和5年8月1日 9時～12時 開催場所：神栖市中央公民館（茨城県神栖市溝口4991-4） 参加人数等：鹿嶋市・神栖市内公立小中学校教諭32名、教頭31名、校長14人（総数：77名）

**内容：** ※全体発表の内容をテブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

本コラボ研修では、市校長会との連携のもと、喫緊の学校マネジメントに関するテーマで講義を行い、その対象を教頭および学校のミドルリーダーとした。目的は、各地域における次期管理職候補者に学校マネジメントに関する知識・技能を習得してもらうこととした。具体的には、鹿嶋市・神栖市校長会と連携し、両市内小中学校の教頭ならびにミドル層の教諭を対象としたセミナーを行った。また、市校長会の幹部委員をはじめ、鹿嶋市・神栖市内の小中学校校長にも参加してもらった。市校長会を通じて、各校へ募集をかけ、校長から推薦する形で受講者を募集したため、次期管理職候補の教職員が本研修へ積極的に参加することができた。参加者の内訳は、教諭32名、教頭31名、校長14名の計77名であった。

当日は、鹿嶋市・神栖市校長会の意向を踏まえ、①「学校のビジョン形成」、②「令和の日本型学校教育と人材育成」という2つの講義を各70分行った。講義①「学校のビジョン形成」は加藤崇英教授、長谷川真人教授（いずれも茨城大学教職大学院学校運営コース）が担当し、学校のビジョン形成にあたっての理論的な考え方と実践例について、講義を行った。講義②「令和の日本型学校教育と人材育成」は、鈴木稔教授、高野貴大助教（いずれも茨城大学教職大学院学校運営コース）が担当し、昨今の「令和の日本型学校教育」と「新たな教師の学びの姿」をめぐる政策動向を踏まえた上で、人材育成という観点から学校マネジメントに求められる考え方と実践の在り方を講義した。いずれの講義でも、教職大学院の研究者教員と実務家教員がそれぞれ講話を行い、教職大学院の学修の特徴である理論と実践の往還を受講者に体感してもらえよう工夫した。

なお、本事業の予算で「写真1」に示す通り、講義資料を掲載したテキストブックを作成し、参加者全員に配布し好評を得た。「写真2」に示す通り、テキストブックの裏表紙に本研修が「令和5年度 NITS・茨城大学教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」の助成を受けて実施されたものであることを明記し、あわせて講義内での本事業の概要を説明した。

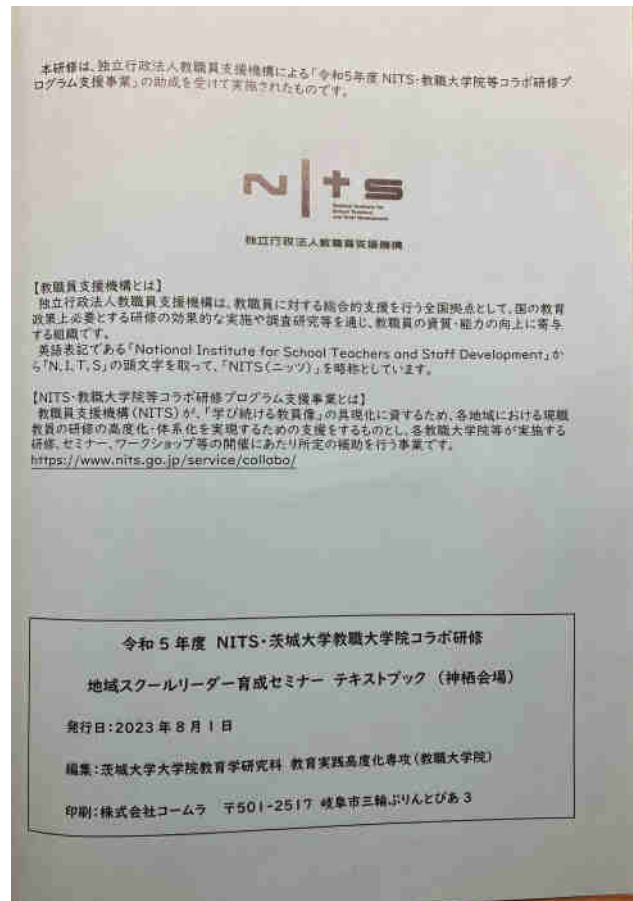
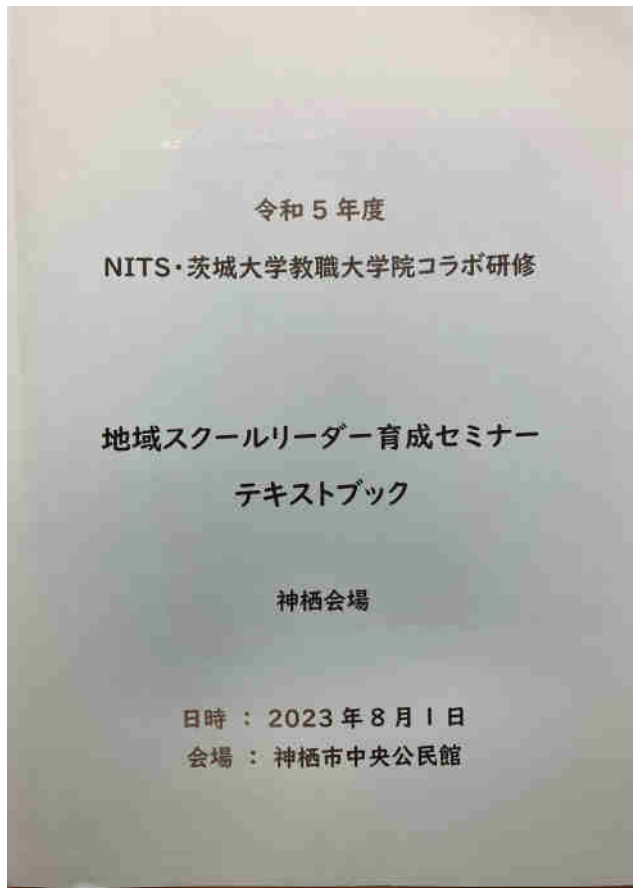
**成果：** ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

研修終了後、受講アンケート（写真3）を実施し、教諭32名、教頭31名、計63名から回答を得た。その結果、講義①、②ともに、全体の満足度（「満足している」、「まあ満足している」）が95%以上であった。また、「あなたにとって本講義は実践に活かすことのできる内容だったと思いますか。」という質問に対し、講義①、②ともに肯定的評価を得た（講義①「思う」53名(84.1%)、「どちらかと言えば思う」8名(12.7%)、講義②「思う」55名(87.3%)、「どちらかと言えば思う」6名(9.5%)）。また、今年度のセミナーの特徴である「同じテーマで研究者と学校管理職経験者から講話があること」に対して、最も肯定的な回答である「良いと思う」に60名、95.2%が回答した。自由記述として、「理論的な講義のあと、管理職経験のある先生方の熱のあるお話がとてもストンと落ちました。」といった回答があり、理論とともに実践につながる講演を意義づける記述が多く見られた。

**アイデアや工夫したこと：** ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

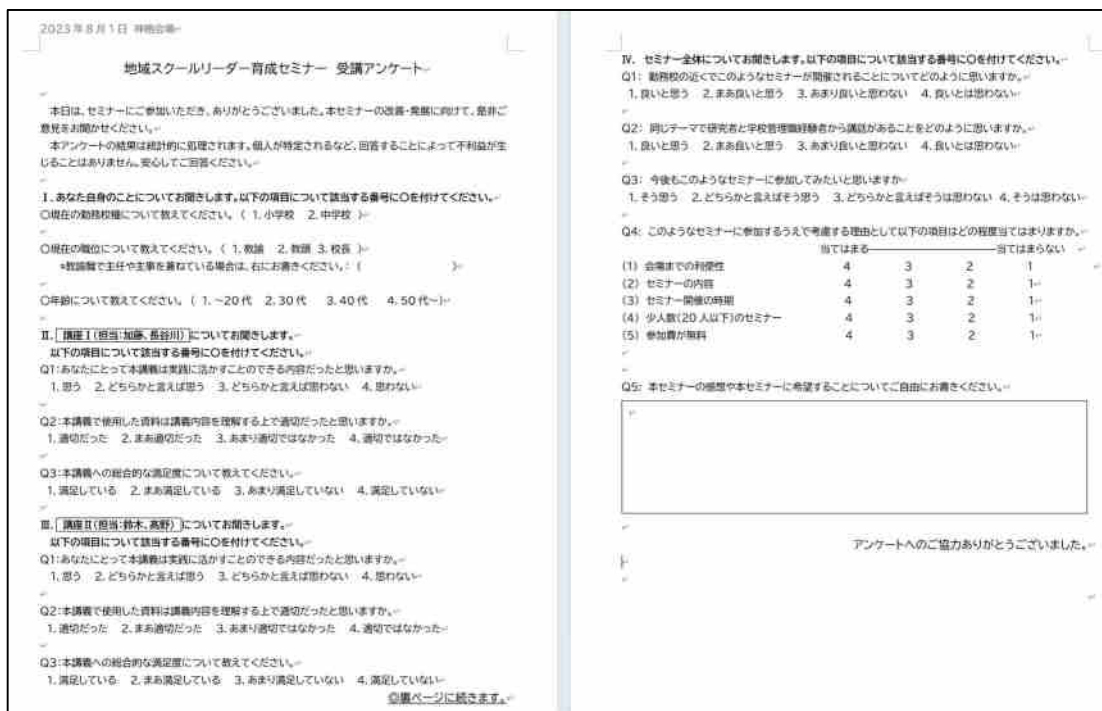
- ・市の校長会の意向を勘案して、講義テーマを設定し、地域における喫緊の課題に応えたこと
- ・教職大学院の研究者教員と実務家教員が同じテーマについて同講義内で講演を行い「理論と実践の往還」を強く意識した講演内容としたこと
- ・校長会を通じて、受講者の募集を行い、なおかつ校長の推薦により各校から管理職候補となるミドル層の教員と教頭に参加してもらったことで、受講者の積極的な研修参加が促されたこと

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



↑ **写真1** テキストブック  
表紙・目次

↑ **写真2** テキストブック  
裏表紙（NITS 事業説明）



↑ **写真3** 受講アンケートの様式